

令和4年度 第2回公開考古学講座

2022年7月9日

「明和町北野遺跡の発掘調査

—6世紀～8世紀の土師器生産について—」

三重県埋蔵文化財センター

上村安生

今日のお話

1. 北野遺跡の発掘調査
2. 三重県内の土師器焼成坑について
3. 出土遺物について
4. 土師器生産について
5. まとめ





北野遺跡第1次調査



北野遺跡第2次調査



北野遺跡第2次調査



北野遺跡第3次調査



北野遺跡第3次調査



現在の北野遺跡(東から)



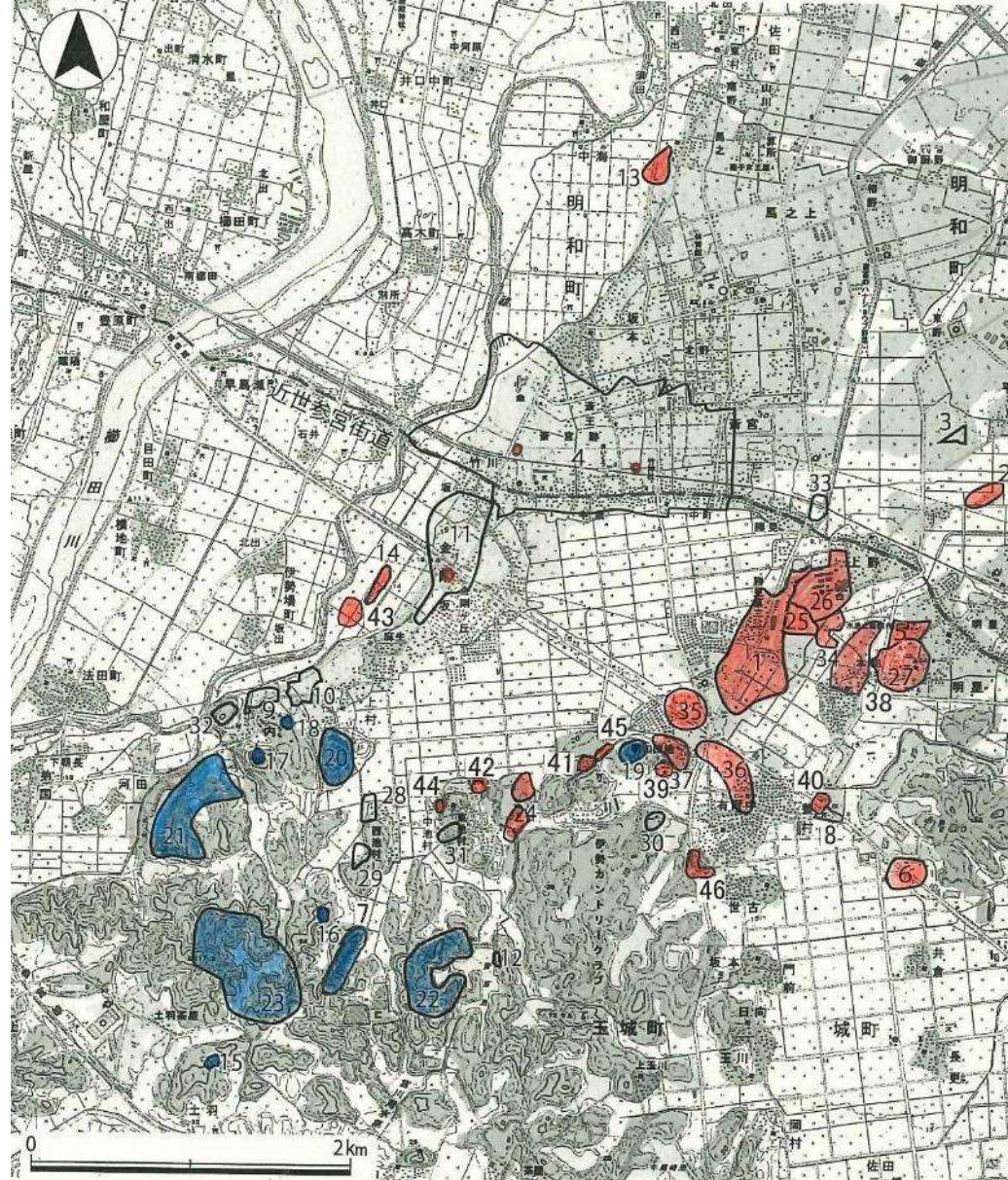
現在の北野遺跡(北東から)



北野遺跡遠景(南東から)

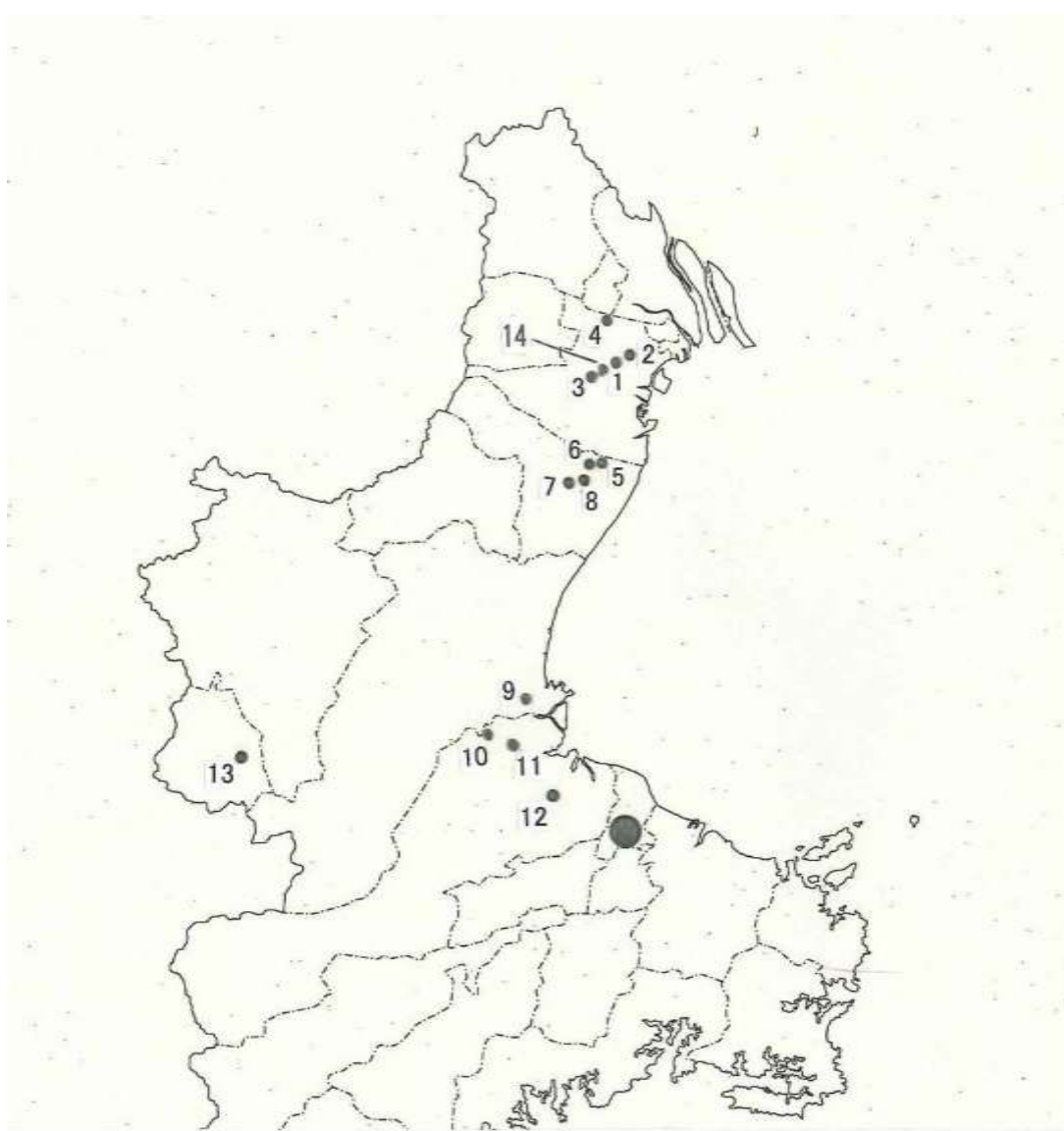


北野遺跡と遠景に斎宮跡（南東から）



土師器焼成遺構(赤色)・古墳(青色)の分布(*1)

- | | | | | | |
|----|--------|----|-----------|----|---------|
| 1 | 北野遺跡 | 2 | 曾祢崎遺跡 | 3 | 鱗尾城跡 |
| 4 | 齋宮跡 | 5 | 水池土器製作遺跡 | 6 | カリコ遺跡 |
| 7 | 小金古墳群 | 8 | 神宮御料土器調整所 | 9 | コドノA遺跡 |
| 10 | コドノB遺跡 | 11 | 金剛坂遺跡 | 12 | 齋宮池遺跡 |
| 13 | 栗垣内遺跡 | 14 | 寺垣内遺跡 | 15 | 権現山2号墳 |
| 16 | 高塚1号墳 | 17 | 大塚1号墳 | 18 | 神前山1号墳 |
| 19 | 垣場古墳群 | 20 | 天王山古墳群 | 21 | 河田古墳群 |
| 22 | 齋宮池古墳群 | 23 | 上村池古墳群 | 24 | 戸峯遺跡群 |
| 25 | 古堀遺跡 | 26 | 安養寺跡 | 27 | 黒土遺跡 |
| 28 | 西村遺跡 | 29 | 愛場遺跡 | 30 | 有爾中城址 |
| 31 | 池村城址 | 32 | 岩内城址 | 33 | 丁長遺跡 |
| 34 | 仲畑遺跡 | 35 | 堀田遺跡 | 36 | 発シA遺跡 |
| 37 | 垣場遺跡 | 38 | 本郷遺跡 | 39 | 発シB遺跡 |
| 40 | 鳥墓遺跡 | 41 | 片落C遺跡 | 42 | 大道A遺跡 |
| 43 | 川原口遺跡 | 44 | 世古D遺跡 | 45 | 長五郎林B遺跡 |
| 46 | 西垣内遺跡 | | | | |



明和町周辺以外土師器焼成坑の分布(*2)

1 西ヶ谷遺跡

4 小牧北遺跡

7 平田遺跡

10 天花寺北世古遺跡

13 鴻ノ巣遺跡

2 山奥遺跡

5 寺山遺跡

8 岡田遺跡

11 西野田遺跡

14 江田川遺跡

3 落河原遺跡

6 鏡谷遺跡

9 高茶屋大垣内遺跡

12 新田町遺跡

遺跡名	所在地	基数	時期	焼成器種	位置図番号
北野遺跡	多気郡明和町養村、明星ほか	228	6C中～8C中	杯・皿・碗・高杯・甕・鍋・甌・土馬	1
水池土器製作遺跡	多気郡明和町明星字水池	29	8C	杯・皿・碗・甕・鍋・甌・土馬	5
黒土遺跡	多気郡明和町明星字水池	7	8C	杯・皿・碗・甕・甌	27
本郷遺跡	多気郡明和町明星字扇田ほか	5	12C・13C・16C	皿・鍋・棒状土製品	38
堀田遺跡	多気郡明和町有爾中字堀田	20	7C	碗・甕・鍋・甌	35
発シA遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ・平田	6	8C	甕・鍋	36
発シB遺跡	多気郡明和町有爾中字発シ・垣場	16	8C	杯・皿・碗・甕	39
垣場(発シC)遺跡	多気郡明和町有爾中字垣場	6	7C	碗・皿・碗・甕・盤・甌・甕	37
鳥墓遺跡	多気郡明和町養村字鳥墓	1	15C～16C	皿・鍋	40
片落C遺跡	多気郡明和町池村字片落	3	7C	甕	41
戸峯遺跡群	多気郡明和町池村字戸峯	133	8C	杯・皿・碗・甕・鍋・土馬・土鍾	24
大道A遺跡	多気郡明和町池村字大道	2	8C	杯・皿・碗・甕・鍋・甌・土馬	42
川原口遺跡	多気郡明和町金剛坂字川原口ほか	1	8C	甕	43
金剛坂遺跡	多気郡明和町金剛坂字辰ノ口ほか	3	8C	甕	11
斎宮跡	多気郡明和町斎宮字御館ほか	3	8C	杯・皿・甕	4
粟垣内遺跡	多気郡明和町馬之上字粟垣内	2	8C	甕	13
世古D遺跡	多気郡明和町池村字世古	5	8C	碗・皿・甕	44
曾祢崎遺跡	多気郡明和町上野字曾祢崎	3	7C後～8C前	甕	2
長五郎林B遺跡	多気郡明和町有爾中	2	不明	なし	45
安養寺跡	多気郡明和町上野字屋敷	32	8C	杯・皿・碗・甕	26
古堀遺跡	多気郡明和町上野	63	8C	杯・皿・碗・甕	25
仲畑遺跡	多気郡明和町上野	15	8C	杯・皿・碗・甕	34
西垣内遺跡	度会郡玉城町世古字西垣内	3	8C	皿・甕・鍋	46
カリコ遺跡	度会郡玉城町世古字カリコ	11	8C	甕	6
合計		599			

明和町周辺の土師器焼成遺構一覧

遺跡名	所在地	基数	時期	焼成器種	位置図番号
西ヶ谷遺跡	四日市市東坂部町字西ヶ谷	7	7C前	甕	1
山奥遺跡	四日市市羽津字山ノ奥ほか	3	7C	甕	2
落河原遺跡	四日市市西坂部町字落河原	3	8C	甕・竈	3
江田川遺跡	四日市西坂部町山添	1	7C前	甕	14
小牧北遺跡	四日市市小牧町野畑・東山	5	12C	土師質土器皿・椀	4
寺山遺跡	鈴鹿市高岡町字寺山	1	8C	甕	5
鏡谷遺跡	鈴鹿市国分町字鏡谷	1	7C~8C	土師器	6
平田遺跡	鈴鹿市平田本町	1	11C	口ク口土師器小皿	7
岡田遺跡	鈴鹿市竹野町内竹野	1	8C	甕	8
高茶屋大垣内遺跡	津市城山1丁目	16	6C	杯・皿・椀・甕・高杯	9
天花寺北瀬古遺跡	松阪市嬉野天花町字北瀬古・西山	9	7C~8C	杯・甕	10
西野田遺跡	松阪市嬉野下之庄町ほか	1	7C後~8C前	杯・甕	11
新田町遺跡	松阪市大黒田町字新田町	1	8C	甕	12
鴻之巢遺跡	名張市夏見字鴻之巢	1	8C	なし	13
合計		51			

明和町周辺以外 土師器焼成遺構一覧

土師器焼成坑の出現時期と変遷

- 出現時期は、6世紀の中頃と考えられ、北野遺跡や津市高茶屋大垣内遺跡で確認されている。
- 明和町周辺の土師器焼成坑のうち、7世紀代のものは堀田遺跡・垣場遺跡・片落C遺跡等で確認されている。
- 明和町周辺のその他の焼成坑は、概ね8世紀代のもので、平安時代以降については定かではないが、明和町黒土遺跡では、平安時代末頃の土師器焼成遺構の存在を想定させるような焼土層や焼土塊を含む土坑が確認されている。また、明和町鳥墓遺跡では15～16世紀の焼成土坑が見つかっている。
- 県内で現在確認されている土師器焼成坑は、6世紀中頃から8世紀末までの概ね250年程の間存続している。遺跡の数としては8世紀代のものが多いといえる。

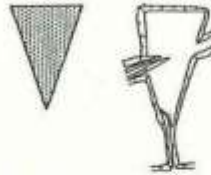



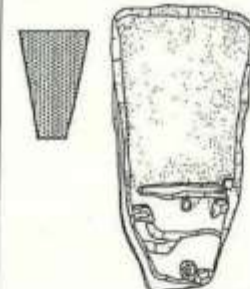
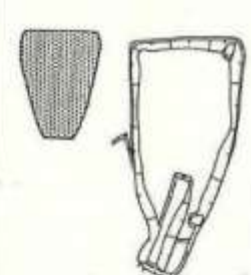



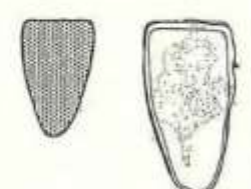

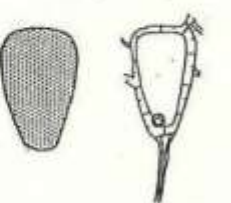
土師器焼成坑の類型化

【形態】

基本的には長三角形あるいは長台形である。更に細分は可能ではあるがプランが直線的なものは新しく奈良時代に入る傾向にある。

【規模】

横軸は1.5m～2.0mの間、縦軸については、北野遺跡や堀田遺跡などの古い時期のものは3.0m～4.0mのものが多く、最大のものも5.0mにもなる。戸峯遺跡群や水池遺跡など新しい時期のものは、横軸は変わらないが縦軸は3.0m以下のものも多く、規模が縮小傾向にある。

	A 底辺・側辺とも直線	B 底辺は直線・側辺は曲線	C 底辺は曲線・側辺は直線	D 底辺・側辺とも曲線
I 二等辺三角形	 1次-SF27 1027	 2次-SF46 2046	 2次-SF227 2227	 3次-SF298 3298
II 台形	 3次-SF122 3122	 3次-SF91 3091	 3次-SF186 3186	 2次-SF338 2338
III 台形で先端が丸	 3次-SF92 3092	 3次-SF147 3147	 2次-SF166 2166	 1次-SF60 1060

土師器焼成坑形態分類 (* 3)



長三角形(直線)



長三角形(曲線)



長三角形(曲線)



長三角形(曲線)



台形(直線)



台形(直線)



台形(曲線)

土師器の焼成技術

【構造】

基本的に次のような特徴を示す。

- ①規模に差はあるものの、地山に掘り込まれている。
- ②床、奥壁、側壁は火熱を受けており、一様に赤く固く焼けている。ただし、前部は火熱を受けた痕跡がなく、高まりを持つ例が多い。焼けている部分は、全体の7～8割である。焼土となっている厚さは5cm前後であり、壁は検出面の高さまで焼けている。
- ③焚口、煙道を持たず、天井の痕跡も見られないもので構造的な窯ではない。

焼成の方法としては、床に燃料材を敷き、その上に土師器を積み上げ、更に藁などで覆い、泥や灰で覆った覆い焼きが考えられる。地山への掘り込みは奥壁や側壁は垂直に近く、削平を受けているものが多いが北野遺跡の例では、深いものは50cmを超えるものもある。



燒成実験



燒成実験



燒成實驗



焼成坑が見つかったときの様子



3つ重なった最初に作られた焼成坑



3つとも掘り終わった状況



床面の焼けた状況



壁の焼けた状況



焼成坑を見つけた時の土の色の違い



先端のテラス状の高まり



一番大きい焼成坑(左下)



焼成坑の大きさの比較

土師器の生産形態

【立地と場所】

基本的には丘陵縁辺部や段丘上に位置する。

【遺跡内での分布】

単独である場合と重複する場合があるが、基本的に頂点部分が等高線に対して低い方を向き、重複する場合も古い土師器焼成坑が等高線に対して頂点を下にする。

【生産器種】

器種には、椀・杯・皿・高杯・甕（長胴のもの、小型のもの、把手の付くものなど）・鍋・甑・筒形土器があり、土馬も出土している。



後ろで連続する焼成坑



先端が重なる焼成坑



複数が重なる焼成坑



複数が重なる焼成坑



複数が重なる焼成坑



有孔広口筒形土器の焼成状況



有孔広口筒形土器の焼成状況



発掘作業風景



須恵器の出土状況



有孔広口筒形土器の出土状況



焼成に失敗した土師器などの捨て場



発掘作業風景



捨てられた土師器のかたまり



捨てられた粘土と須恵器



捨てられた粘土と土師器



掘り終えた様子

まとめ

- 北野遺跡では土師器生産が6世紀中頃から始まり、8世紀末には終了する。
- 平安時代以降、土坑を伴う土師器焼成坑が確認されなくなる。生産の場所が移ったのか生産方法が変わったのかは謎のまま。
北陸などでは9世紀以降も地面に穴を掘る土師器焼成坑で土師器が焼かれている。
- 詳細は別紙参照。

図面の出典

- * 1 国土地理院「松阪」「明野」より作成
- * 2 今回新規作成
- * 3 上村安生「Ⅲ. 三重県内の土師器焼成坑について」
『研究紀要 第7号—土師器焼成坑と古代土器の生産と流通』
1998 三重県埋蔵文化財センター
P13第5図を一部改変して作成

使用写真

すべて三重県埋蔵文化財センターの提供による。